「対話と実行」座談会（H20.5.13(火)　芸西村）の概要

●知事あいさつ

高知県の財政（平成20年度）のパンフレット（以下のＵＲＬ参照）を基に説明。
（http://www.pref.kochi.jp/~zaisei/joukyou/pamphlet/H20zaisei.pdf）

●座談会

【土着天敵についての規制・特区、地球環境を中心とした政策】

Ａさん：芸西エコ農業研究会としていくつかの活動を行っているが、その中の二つを申し上げたい。一つは土着天敵を使った害虫の防除、もう一つは木質バイオマスボイラーの導入について。

まず、土着天敵について、私たちは高知大の研究室と一緒に活動している。土着天敵というのは分かりやすくいえば、その辺にいる虫を取ってきて、悪いことをする虫をやっつけるものである。エコ研として、技術の確立と広く普及させることを目的としている。

普及させるのに、土着天敵というのは、人工的に増殖させたものは人には譲渡できないという規制があり、大きなネックになっている。高知大と一緒に活動し、技術も情報力も施設もある。取ってきた天敵を増やしてもらい、それを自分たちのところにもう１回戻す、そういうことを期待していたし、大学側も研究が地域の貢献にもなるので是非やりたい、というお互いの思いがあるが、規制があってできない。であるので、高知県全体をそういう規制から外し、特区にしてもらいたいという動きがある。農業振興のための起爆剤になると思うので、是非知事にバックアップをお願いしたい。

もう一つはバイオマスボイラーで、一番最初に導入しようと思ったのは、重油価格の高騰がある。他に方法は何かないだろうかと勉強を始めた。課題が多く、費用もかかるので、どうしようかと思ったが、ものすごくきれいな地球の映像を見て、これを守らなければならないと思って、踏切ることにした。知事も地球環境のことを心の中心において、100 年の計として政策にいかしていってもらいたい。今高知県の農業だけじゃなく、日本の農業がどこもしんどい状況になっている。高知県は総力戦で、行政も、大学も、１次産業も全部一緒になって、チーム高知県としてことに当たっていく必要があると思う。自分たちはチーム高知県の選手だと思っているので、知事はその監督ということで、勝てるようなチームに導いていってほしい。

知事：土着天敵の規制の理由は。

Ａさん：生態系で、急に増えたらバランスが崩れるということを心配されてのことだと思う。ただ、高知大の先生は遺伝子レベルまで見て、そういうおかしなことにならないようにまでちゃんとフォローをするということを言われているので、その辺は大丈夫だと思う。

知事：特区にしていく取り組みというのは私も必要だと思うので、それは頑張っていきたい。構造改革特区は、鳴り物入りで導入されたが、あまりインパクトのない特区しかでてきていなくて、そういう中でこういう特区というのは有意義なものであると思う。生態系の問題など、いろいろ簡単には関係者を納得させられない点も出てくるかもしれないが、粘り強く説明しなが

ら頑張っていきたい。

木質バイオマスについては、県議会においても「CO_2±０宣言」というのがなされている。本県がそのような宣言がなされているということ自体、環境については先駆的な取り組みを行ってきた県であると思うし、更にこれからも推進していきたい。「環境立県の推進」ということもパンフレット５ページに書かせていただいているし、「地球温暖化防止対策の推進」とともに「エコエネルギーと環境産業の創出」ということも書かせていただいているが、木質バイオマスの取り組みも一つの大きな柱だと思う。ペレットの安定的な供給や、ペレットのコストの問題もあるが、ここまで原油が上がってきたので、採算に乗るような状況に近づいてきたと思う。環境対策という大きな意義もあるし、原料の供給が安定すれば、輸入頼りでなく安定化させられるということもあるので、ペレット作りからボイラーの研究まで、一貫してどのような対策を取っていくかについて総合的に取り組んでいくべき問題だと思う。実際のところは、まだ完全に技術が確立していないので、それぞれの地域で競争して取り組んでいる段階だと思う。今の段階では、競い合うということも必要だとは思うが、ある程度、技術について決着がついてくるなとみられた瞬間には一斉に取り組みをしていくようなことが必要だと思う。

【木質バイオマスボイラーの県全体としての取り組み】

Ｂさん：バイオマスボイラーの事業で、環境省のCO_2削減対策の事業で申請して、今月中に採択されるかどうかの結果が出る。バイオマスボイラーについては、Ａさんも言われたように、重油の高騰がきっかけとなり、その後、環境問題と、二本立てで、これから農家が生き残っていくにはどうしたらいいかということを考えている。一番の問題は、知事も言われたように、燃料の問題で、この間も梼原の方と、消費側の考え方と山側の生産の考え方について話し、一緒に協力してやろうという話もいただいた。県内全体で、農家、山を含めて、協力できるような体制をつくってもらいたいと思う。

知事：木質バイオマスについては、県内それぞれで取り組んでいるので、例えば統一的にやることはできないのかという話もしてみた。ただそのときに、先ほども申し上げたが、それぞれ技術のあり方、ボイラーの方式など、どれが一番優れているかということに決着がついていない状況であるという話があった。ただ、他方で、ペレットの研究などは、産地と最終消費者で協力ができるのかもしれないと思う。競い合う部分は残しながら、どこまで協力できるのかということを整理したい。

【木質バイオマスボイラーの普及】

Ｃさん：去年の 11 月から私のハウスを（バイオマス等未活用エネルギー実証実験事業に）提供して、結果は重油と変わらないくらいの成果が上がっている。この技術をもっと広く普及させていくための取り組みが必要である。高知県の間伐材、雑木を利用し、県内で確保して、ペレットを供給する会社ができれば、林業も活性化するし、農業も重油代の費用がかさんでいるので、県内でうまく回転すれば、成功の方向に向かうと思う。

知事：梼原町のペレット工場には起工式に行ったが、ここで初めてペレットを安定的に供給でき

る体制が整ったかなと思う。さらにこのフレームワークというのを（提出された資料に）書いていますが、これは本当に目指すべき姿だと思うので、そのためにはどういうことができるのか、より一層何ができるのかということについて、統一的な仕組みというのを考えてみたいと思う。引き続き、山の側のコストの問題、ペレットの単価が最終的にどうなるかという問題もあるだろうが、使う農家の数が増えてくれば増えてくるほど、困難も解決していくと思う。

知事：（A～Dさんから事前にいただいた資料を指して）これは協働の森事業などにあてられた資源というのを一定投入してみてはどうかというご提案でありますか。おっしゃるとおりで、環境問題という点でもそうだし、何より山の間伐を助けるというのもある、それから、農家の皆様方の今の重油価格でいけば、コスト削減というものにもつながると、環境にもいい、山にもいい、農業にもいいということだろうと思うので、それはもう地球環境という取り組みだと思う。あとは、コストの問題をどうするか、機材同士のマッチングの問題とかそういうこともあろうかと思う。使途を今はっきりと区切らせていただいているものなので、我々としてもよく勉強させてもらいたい。ご提案ありがとうございます。全く可能性がないというわけでもないということのようなので、考えてみます。

【土着天敵の情報についての協力体制】

Dさん：天敵の使い方について、高知大学と一緒に活動している。天敵類というのはなかなか扱いにくいが、みんなが扱えるように、害虫が発生する前に天敵を居つかせてしまおうということで、バンカーの中で初めから天敵をいつかせて、種をまき、害虫がやってきたときには、既に天敵がいるというバンカープランツ法ということをやっている。苗のうちに定着させておけば、作の終わりまで効果が続くということで、やっていただける苗屋さんをいろいろ探したが、高知県内に見つからないで、愛媛県の業者に取り組んでもらえることになった。去年あたりから試験をし、非常にうまくできていて、ひょっとしたら今年から皆さんにお分けできるんじゃないかという状態であるが、土着天敵で、県外に出すことができない。農薬メーカーが登録をおろした段階から、また苗屋さんを含めて取り組もうと考えている。

知事：愛媛で作っていただいて、それを高知県に持ってくることができないのですか。

Dさん：はい。土着天敵は、農薬登録を取った分に関しては持ってこられるが、県内で採取した土着天敵は県内のメーカーさんしかできないということで、できるだけ早く苗のうちからつけてしまおうというのが合格になった。お願いだが、まだまだ問題点が数多くあり、県内で取り組んでいる農家の情報交換の場所、また、試験場などいろいろ専門家の情報が欲しい。土着の有望な天敵もいるので、みんなで情報等の共有、みんなで飼って取り組めるシステムができれば一番いい。知恵を県の方からお借りし、是非協力をお願いしたい。

知事：おっしゃるとおりだと思うので、考えていきたい。

【赤ピーマンの選果機、1.5 次産業への取り組み】

Ｅさん：知事にもメールを送っているが、赤ピーマンの選果機についてお話ししたい。ピーマンの等階級は７種類に分かれていて、出荷場へ出荷するためには、選別が必要だが、高齢者は傷が見えないこともあり、出荷場には出荷できない。選果機について、工科大画像認識の分野においては日本一の方かなという教授と一緒に人間の目で見て分かる選果のシステムを作ってもらっている。人間が見るのと同じような識別をしてくれるプログラムを作ってくれ、さらにそのプログラムのいいところは、今あるハードはそのままで、ソフトだけ使うということも可能である。さらに赤ピーマン以外にも流用が可能ということである。県にプログラムを持っていただければ、非常に高知県にとってはいい知的財産になるし、県内規格の統一も可能である。市場側、買い手も、同じ品質・同じ規格を求めているが、現状では県内でも西と東で品質規格の差がばらつきがあり、築地などでも差があったら買いにくい、結局それが売値にも影響を与えていると思う。

次に、Ｂ級品についての考え方だが、先ほど知事もおっしゃってくれたように、1.5 次産業というものを考えていかなければならないと思っている。料理屋で、Ｂ級品となる傷があるピーマンの肩の部分は切り落として使っていたのを見て、東京のスーパーでは独身向けということでカット野菜というコーナーもできているくらいなので、そういうことも考えていかなければならないかなと思う。また、輪切りにするとそれがハート形になるピーマンは、ピーマン嫌いのうちの子どもが喜んで食べたので、カット野菜にもこういう道があると思った。もう一つ、外国とかでは、パプリカパウダーが普通に売られている。赤ピーマンは栄養が豊富なので、パウダーにするというのも、今後 1.5 次産業というものを考えていくなら、必要ではないかなと思っている。ただ、その加工品を作る機械設備を、他県の民間企業に安易に委託するのではなく、県内の、県内にも工科大、工業技術センターなど、知識のある方、技術力のある民間があるので、そういうところを利用して、高知県の産物をブランド化していくことが必要だと考えている。

知事：Ｂ級品について、例えば、芸西村の赤ピーマンがたくさん入ったカット野菜というのは高級なカット野菜として売りこめるかもしれないと思った。

1.5 次産業の話について、Ｅさんのアイデア豊かなお話は素晴らしいと思うが、他方で、そう簡単にうまくいかないということもあろうかと思う。一つは、企画の作り込みというのをしっかりやっていかなければいけない。その地域にとっては珍しいものであったとしても、他県では当たり前のようにやっていることかもしれないので、外部の、できれば他県の専門家、アドバイザーの方に協力していただいて、地元のよさを知っておられる方と外の目と両方合わせていい企画の作り込みをしていくのが重要かなと思っている。加工などに一定の機械が必要であっても、企画の作り込みがしっかりしていれば、機械についてはどうしようかという話がきちんとできると思う。もう一つは、販路の確保について、少量作ったもので全国で通用するか試してみようといってもなかなかそんな販路は確保できない。その販路を確保するために、例えば、県のアンテナショップをご利用いただくとか、県で東京のスーパーなどと提携してやっている部分があるので、そちらのブースを使うかとか、いろんな商談会のブースを県として確保して一部ご提供するとか、いろんなやり方があると思っている。ブランド化に向けた企画の作り込み、また、できれば、例えば「太陽を浴びて、長い日照時間の中で育った、安全安心で、

かつ健康にもいいということが確実な野菜」などの物語を作り込むやり方についての支援、それから、加工などをしていく際の支援、最後に販路の確保についての支援、それぞれの段階でどういうことができるのか、産業振興計画で選ばれたものに対してどのようなことを県がやれるのかという答えとして、これは今後考える必要があると思っている。

もう一つ、選果機の件は、非常に素晴らしい話だと思う。これができたら、高齢化対策という点もあるし、何より規格の統一というのが大きいと思う。また、省力化というのもある。どういう対応が取れるかについては、我々も担当の者に「お話を伺って共同でやっていくように」と伝えておく。

機械設備についての地産地消というお話については、農業、林業、漁業の世界で高齢化が進んでいるのであれば、効率的なものづくりというのをしていかなければならない。いろいろな組み合わせがあろうかと思うが、基本的には機械化を図っていくというのが一つの手だと思っている。例えば、林業でも今かなり高性能の機械を山に投入している。そのような工業の機械の分野と農業のマッチング、１次産業のマッチングをどうやって図っていくかということを真剣に考えてみようというお話が高知県の工業会の皆様方からもあり、工業界と農業界との連携会議というのを昨日第１回目として行ったところである。１次産業の農業の機械化を県内の産業にしてやっていこうではないかという取り組みもあるので、そういうところでもうまく活かさせていただくということもあるかもしれない。

【環境保全型農業の推進】

Ｆさん：芸西というと、天敵を 10 年くらい前から導入してきて、今現在でも高知県は全国でもトップクラスを走る天敵を利用する技術があると自負している。天敵を使って３年ぐらいしたころに芸西のハウスのど真ん中を流れる幅が５ｍくらいある排水路に今まで見たことがないくらいホタルがいた。自分たちは害虫を防除するためにやってきた技術だが、本当に環境保全型農業という考え方があるなと実感した。この環境保全型農業を、さっきの特区の話もあったが、高知県全体としてもっと盛り立てていっていただくようにお願いしたい。

知事：環境保全型農業が高知の良さであるということはそのとおりで、大切にしたいと思うが、もっともっと伸ばしていくためにいろいろ工夫があると思うので、そういう取り組みは行っていきたい。

【「土佐鷹」の応援、高速道路の開通】

Ｇさん：我々が長年念願であった多収性のある品種「土佐鷹」が試験場の方で５年前にできた。これは県のブランド化として取り組みを進めていって、昨年あたりから区分販売を安芸郡内で行っている。ただ、ブランド化を目指して今大事な時期に、年々農業振興センターの人員が減らされている。新しい品種は指導力がないと厳しい。昔みたいな活性化を目標にして、自分たちはこの土佐鷹を最後の手段と位置づけているので、援助の方をよろしくお願いしたい。

もう一つ、高速道路はいつできるか。自分たちも視察で市場に行ってナスを見ると、全国で一番鮮度がないのは高知県のもので何とかならないかなと思っている。

知事：おっしゃった「土佐鷹」については、力を入れて育てていくために我々も一生懸命頑張っていくが、人員が減っているということについて言えば、県庁全体としてとても厳しい財政状況の中で、人を減らしていかざるを得ないので、全体の中でメリハリをつけてどう対応していくかということだと思う。人は減るかもしれないが、土佐鷹などを応援していこうという気持ちを持っているのでよろしくお願いしたい。

高速道路については、着実に少しずつだが、工事が進んでいる。今後、東側に抜けて８の字になるのかどうかというのは大きな問題も出てくると思う。例えば、安芸と阿南を結ぶ高規格道路ができたら、本県も８の字に結ばれる。我々としてはそれを何としても実現しなくてはならない、東側の道路についてもやっていかなければならないという気持ちである。この実現は本県にとっては是非とも必要ということを訴えさせていただいている。他方、今後の道路の整備計画づくりで、新たな調査、最新の数値に基づいて、５年間の整備計画を作っていくということになっている。計画の中にどう位置づけられるかが重要だが、本県は人口が減少しているので、利用者数だけで見られると不利な点が出てこようかと思う。しかしながら、時間短縮効果、安定性を考えたときに、是非忘れてもらいたくないのは、本県の道路事情、例えば、年間の通行止め時間が 15000 時間ということである。道路の整備がしっかり進めば、年間の通行止め時間を考えたら相当の時間短縮になる。利用者数ということだけで単純に割り切るのではなくて、通行止め時間が減少する、安定的に物を運べるようになる、さらに、安全安心、命に関わる問題であるというようなことをしっかり訴えていきたい。本県の真の道路の必要性をいかに積極的に訴えていくか、これは我々の仕事だと思っていて、全力で取り組んでまいりたい。

【補助事業の申請について】

Ｈさん：園芸研究会でどんなことを取り組んでいるかということを話したい。まず一つは、芸西小学校の３年生を対象として、地域ぐるみで「ハスモンヨトウを捕獲しよう大作戦」というのをやっている。ハスモンヨトウはガで、ガの幼虫の青虫がピーマンの葉っぱなどを食べるので、それを捕獲するという作戦をやっている。村内では年間に 1000 匹以上は捕獲していると思う。子どもたちには、農薬をできるだけ使わないようにして害虫を捕獲しているということを教える活動を行っている。

次に、芸西村でブルースターという花を作っている。高知県では芸西村だけで栽培している。全出荷量の９割がブライダル用で、１割が一般販売と聞いている。小売としてまだ１割しか使っていないので、取り組みを進めたら、もっと販路も広がり、将来的には大変有望な花としていけるんじゃないかなと考えているそうである。ブルースターといえば芸西村だと言われるくらいにブランド化を目指して生産農家が一丸となって頑張っているので、知事に応援していただきたい。

もう一つ、重油高騰対策事業で、３重カーテンの補助事業を県がやってくださって、芸西村でも申請などを行っている。しかし、あまりにも現場とのギャップが大きすぎる状況となっている。どういうことかというと、中に貼る被覆資材が５年償還である。他の作物は分からないが、自分たちピーマンを作っている者は、夏になったら、ハウスを閉め切って中の温度を 80～90 度にして中の悪い菌を殺す作業をするが、被覆資材はその 80～90 度の環境下では持たない。このような作業がない作物の人は、補助事業を受けられるが、ピーマン農家は無理である。ま

た、ハウスの中でウドンコ病予防のために硫黄を焚くが、ポリフィルムでは傷んで破けるので、ビニールでないといけない。しかし、その補助事業については、ビニールは認められないと聞いた。補助事業を取り入れたいのに使えない、という現場と事業の進め方のギャップがある。臨機応変に、現場に対応した、使いやすい補助事業をしていただきたい。それと、申請処理もいろいろ面倒で、高齢者の方は書類が書けず、申請ができないという方もいるので、できるだけ簡素化していただきたい。

知事：ブルースターといえば芸西村というのは覚えておきたい。

重油高騰対策で、現場と遊離しすぎているということは、もしかしたらこちら側の方にも事情があるのかもしれないが、調べてみる。補助制度を作ると、要件が厳しすぎて全くあてはまらない状況がある。社会福祉の分野でも、国で作った規制が、都会だったら大丈夫なものが、中山間地の人の少ないところだと全く当てはまらないということが多々ある。国に対して、本県の実情に当てはまらないので、制度改正をという話をしている。補助制度を組み立てていくときは、どうしてもまず机の上でプランニングをしていくので、それが実際の利用者の方々にとって非常に使い勝手が悪いということも出てくることもあろうと思う。貴重な意見をいただいたと思うので、研究してみたい。改良できる余地があれば、それは改良できるようにしたいと思う。いずれにしても、対応させていただきたい。

申請書類の簡素化はできるだけ進めているが、県民の皆さんの税金を使っているので、やはりしっかりとした書面をもらわないといけないということもある。努力はするが、ある程度のものは必要なので、是非Hさんにも、他の方のお手伝いをしていただければ。

【人事異動のスパン、補助事業の拡大】

Ｉさん：先ほどから天敵防除の話が出ているが、今年で 10 年経った。この天敵防除はすごい効果があり、農薬を飛散することなどがない。そして一番大事なことは、ナス、ピーマンの産地として、全国に誇れる安全安心な野菜を全国に供給できる。芸西村は、施設園芸が県内でも有数の産地で、圃場整備が進んでいて、全国各地のハウスを視察に行くが、これほどいいところはないと思っている。県内で環境保全型農業のトップランナーを目指していくわけだが、普及員で、短い方は１年でかわる方、３年でかわる方もおられる。もうちょっと長くいていただき、一つの産地ができるまで、天敵ができるまで 10 年かかっているということもあり、10 年１スパンということで、人事の異動を考えていただいたらと思う。

研究会の事務局で大きな事業があり、ナス、ピーマンの収穫体験を幼稚園児を対象として行っている。芸西幼稚園と高知大附属幼稚園の子どもさんや親御さんに来ていただいているが、消費者の一人として、新しいピーマンやナスの品質の良さをもっと知ってもらいたいということと、もう一つは、ナス、ピーマンは幼稚園児の嫌いな野菜の上位に入っているので、それをどうにかしたいというのがある。料理に工夫をすると、子どもは全部食べていってくれる。食の教育というのは幼稚園の時代から進めていく必要があると思う。

最後に、補助事業は本当にありがたい事業で、どうしても自己資金では建替えができない農家が結構いるので、そういう事業を利用させていただき、ハウスの建替え時期を乗り越えていきたいと思っている。そして、今日は重油の高騰が経営を圧迫しているという話も出ているし、

それに代わるバイオマスだとか、ヒートポンプ、これらにも（補助）事業をつけていただければありがたく、普及していくのではないかと思っている。ヒートポンプは、電気を使ったものでハウス内の加温をしていくようなものだが、そういうことについても事業の対象として考えてもらえればと思う。

知事：３番目の重油の高騰対策については、県庁において、進めていって意味があるものを作っていかなくてはいけないので研究してみたいと思う。ヒートポンプというのは、今すぐは分からないが、国の事業であれば、ＮＥＤＯとか、一部やっているところもあるようである。また勉強させていただきたい。

２番目の収穫体験という話は本当に素晴らしい。健康寿命の延伸という観点からも、子どもたちの学力向上、朝ごはんをしっかり食べるという観点からも、この食育の推進というのは極めて重要だと思っているので、今後も進めていきたい。実は、日本全体での国産の野菜の需要量を増やすことについて取り組んでいきたいと考えていて、かつて高知県は、給食などをうまく使って、一人当たりの野菜の消費量を 30ｇ増やした経験がある。全国で一人当たり 30ｇ増やせれば、海外から輸入している野菜の量を軽く凌駕するくらい全体としての消費量が増える。安全安心でよい野菜をしっかり日本人に食べてもらうというのはいいことだと思うし、その中で一番得をするのは多分本県のような野菜王国だと思う。まだ仕込みの段階だが、農水省などに言って、国全体としての食育の推進、特に野菜に対する消費量の拡大というものに今取り組もうとしているところである。そこに相通じるところもあると思うので、もっと伸ばしていただければと思う。

最初におっしゃった長い在任期間で専門性をしっかり育てていくということは我々も心がけていかなければいけないと思っているが、問題があり、今の財政事情の中で全体の職員数をどうしても減らしていかざるを得ないということで、人繰りがなかなかつかなくて、在任期間を変更しないといけないという部分もあると思う。10 年間全員とお約束はできないが、専門性を持った職員を配置することで努力したい。

【芸西天文台について、食育の推進】

Ｊさん：県にお願いしたいのが、先日、天文台がリニューアルされたが、他から芸西に来た人が天文台を見たいというときに､県の許可がないとなかなか入れないとこちらで断ることがある。見たい人にはできるだけ見せてあげたいし、特にこれから夏休みにかけて結構そういう方がいらっしゃるので、是非をお願いしたい。

全国的に商工会は苦しい状況が、芸西村の商工会はかっぱ市という直売所を運営していて、何とか集客も維持できている。かっぱ市をもう少し充実させれば、もっと集客力があり、農家の農産物も結構さばけると思う。今現在、芸西の給食、レストラン等に若干であるが生鮮物などを納入させていただいているし、これは地産地消、小学校の食育にもすごく役立っていると思う。県も食育ということに力を入れて、高知市も今年２月に食育推進計画を立てていると思うが、是非ともそれを立てて、朝から食事抜きの子どもがいないようにしてほしい。農家のためにもなるし、我々商工会員が一生懸命働ける場所にもなるし、それを県はできる可能性がたくさんあると思うので、進めてほしい。

知事：天文台の話は確認して対応したい。

２番目の話で、食育については県もかなり力を入れている、今後も取り組んでいくつもりで、パンフレットの４ページに「食育の推進」を掲げさせていただいているし、「早寝早起き朝ごはん運動」というのも、県は随分前から進めてきている。子どもの教育という観点、それから健康、体力づくりという観点からしても、食育の推進は必要なことだと考えている。野菜の摂取量が日本人は減ってきていて、高知県も一人当たりの摂取量が決して全国に比べて多いとはいえない状況になっているので、全国的な底上げを図るということを進めるとともに、地域における野菜の消費量拡大ということに引き続き取り組んでいかないといけないと考えている。食育の推進は重要なポイントとして進めてきており、引き続き取り組んでいく。（高知県食育推進計画　H19.3 策定）

【陸上競技場への支援】

Ｋさん：芸西村に５種の公認の 400mの陸上競技場がある。これは東部唯一のグラウンドで、東部の大会はほとんどここでやっている。競技場が公認を取れないと、いくら素晴らしい記録が出ても認定されないので公認が非常に大事である。

利用状態について言えば、芸西から東洋町までは 19 中学校があるが、その中学校の大会が年に４回ある。中学生だけではなく、小学校の陸上大会、高校生一般の大会、また、県外から京都や奈良の学校も長期の休みのときに合宿を行っている。その中で、この陸上競技場を維持していくためにはお金が必要で、今年は芸西村が 1800 万円出して整備をした。また、公認を受けるためには３年に１回検査を受けないといけないが、そのためには 400 万円以上必要である。東部地区全体の問題であり、是非県の方で何とか３年に１回の公認のときにはご支援をいただきたい。

知事：東部地区唯一ということなので、意義があることだと思うし、公認が取れる取れないで価値が全然違ってくると思うので、前向きに検討したい。他方、どのように活用していくかについて、是非活用プランを作り込んでいただきたい。村長さんともご相談させていただきながら検討したいと思う。

【陸上競技場への支援、農産物のＰＲ方法や今後の農政】

Ｌさん：小さいときからこの陸上競技場にお世話になっていて、競技場はいろんな面においてどうしても必要な場所であると思っているので、是非とも県の方も、補助の手立てというか、そういう面で頑張っていただきたい。

農業の話もしたいと思う。高知県で園芸連さんがあたたかさとか、自然とかエコとか安全安心というものを前面に出してやってくれているが、もうちょっとインパクトのあるような、また、工夫したＰＲができればと思う。農業も、温暖化により、野菜の収量が減ってくる可能性も出てきている。これからの農業の方向性については、先を見越した農政をやってもらいたい。

知事：陸上競技場の話については、我々もスポーツの振興は重要だと思っているし、東部で唯一

という事情を考えれば何とかしたいと思うが、活用状況の見込みがどうなるのかということが一つの大きなポイントとなってくる。今の状況だけではなくて、積極的な働きかけをすることによって、今後の活用状況見込みを増やしていくというような作り込みをお願いしたい。村長さんともよく相談させていただく。

先を見据えた、育てるべきものを育てるというのは、正におっしゃるとおりだと思う。本県は何もかも優れているというところではないわけで、持っている強い武器というのをいかに活かしていくのかがポイントだと思っている。そういう意味では、ＰＲをするにしても、インパクトがある言葉など、いろいろ考えていかないと思う。ただ、私は、単に用語だけの問題ではなく、どのようにうまくブランドとして仕立てていくのか、ブランドとしての背後に分かりやすい物語をしっかり作り込むことができるか、それをどういう場でＰＲしていくかが重要であると思う。ＰＲをするにも、大切なことは、それぞれにしっかりとした肩書きをつけていくこと。安全安心であるのは、ある意味当たり前で、それに加えて、例えば、日照時間が長いので、抗酸化作用を持つものがたくさん含まれているから健康にいいというような真の意味での付加価値をつけることが、ＰＲする前段階で必要だと思う。しっかりと高知の野菜の良さを活かしていくことが必要だろうと思う。

産品の売込みについては、どうぞ皆様方も考えていただいて、それは皆様方が一番良さを知っているわけなので、是非やっていただきたい。そのバックアップ、商談会や、場所の設定などは県が得意とするところで、そういう役割分担をさせていただくとうまくいくと思う。

【陸上競技場への支援】

Ｍさん：小学生を対象に陸上を指導しているが、競技場には維持費、整備費がかかる。私どもは今のところは使用料などは払っていないが、今後使用料を取られるようになるとしたら、子どもも親も参加しづらくなる。東部地区の子どものために、支援、バックアップをお願いしたい。

知事：前向きに検討したい。ただ、県民の皆様のお金を使うわけであるので、それが説明できなければならない。東部で唯一の陸上競技場で、公認がなくなり、大きく価値が減ずるということは、あっていいことではないと思うので、利用計画の作り込み等をよろしくお願いしたい。我々も頑張りたい。

（知事のまとめ）

皆様方から、バイオマスの話、ＩＰＭ、天敵の問題、選果の問題、陸上競技場のお話、天文台の話、重油対策事業の使い勝手の問題など、非常に有意義なご意見を伺ったと思っている。

今日いただいたご意見の中で大いに参考にさせていただきたいご意見もあるので、産業振興計画づくりの中に活かしていきたいと思う。

また、伺ったご意見について、今後どのように具体化していくか、支援策はどのようにやっていくかなどということを、しっかりと我々の方で検討して、その結果を皆様にもフィードバックさせていただきたいと思う。今後の県政に活かしていくところはしっかりと活かしていきたい。大事なことは、聞きっぱなしにしないということだと思っているので、そのように対応させていただく。

もう一つ、産業振興のメインエンジンはやはり民間の皆様方がいかに頑張っていかれるかということだと思う。県が産業の振興をすると言っても、県の仕事というのは民間の皆様方の自主的な取り組みをいかにバックアップできるかということだと思う。そういう中で、非常に本日は勇気づけられる思いがした。ご出席の皆様方は非常に意欲的で、私と同年代の皆様方が多くいらっしゃって、新しい農業、高度な農業というのを追求しておられる姿を見て、非常に頼もしく思った。皆様方の頑張りこそが本県の農業を伸ばす、本県の強みを活かす取り組みだと思う。我々もどのようなバックアップができるかを真剣に考えていきたいと思う。

本当に長い時間ありがとうございました。今日いただいたご意見をしっかり活かして今後の県政運営にまい進してまいりたい。